

United Nations

ロータリーの目的第4項の「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を促進する」という国際奉仕の目的を達成するために、第二次世界大戦末期のロータリアンは、**United Nations** 国連の設立に大きく関与しました。

当時の記録を見ると、1945年、国連設立の準備会が開かれ、ロータリーはアメリカ国務省の要請を受けて、国連憲章の原案作成に参画し、11名の顧問団がこの作業に当たり、世界各国の代表団のうち、7名の委員長と20名の代表がロータリアンであり、代議員を含めて49名のロータリアンがこれに参画したことが記載されています。ロータリーが国連を創立したわけではありませんが、少なくとも「国連憲章」制定に関しては、ロータリーが大きく関与したことは間違いのない事実です。

こういった経緯もあって、現在国際ロータリー本部には **RI Representatives to the United Nations and Other Organizations** という委員会が設置されており、ニューヨークの国連本部へは5名、ジュネーブとウィーンの国連事務所には各2名、その他の途上国経済支援、環境、食料・農業、ユネスコ、世界銀行などの国連関係機関へ20名のロータリアンを代表として派遣しています。

しかしその後、国連は大きく様変わりして、自国の権利を主張する場となり、平和を得るためには武力行使も已むなしという発想から、国連軍までもが設置されるようになり、ロータリーの国際奉仕の理念とはかけ離れたものになりつつあります。

さて、**United Nations** を「国連・国際連合」と訳したのは名訳(迷訳)であり、本来の翻訳は「連合国」とすべきであり、第二次世界大戦の日・独・伊の「枢軸国」に対比して用いられた言葉です。第二次世界大戦における戦勝国を中心にして結成された極めて政治色の強い組織であり、第二次世界大戦を勝利に導いた主要国には拒否権という、甚だ非民主的な権利を持たせていることは皆さまご承知の通りです。そのことを一番よく知っているアメリカは、自国の都合に応じて、国連決議の無視と遵守を使い分けていますし、当然国が支払うべき分担金を個人に肩代わりさせるという、最大限に国連を軽視した行動を取っています。

「国連」は第二次世界大戦の「連合国」という位置づけに過ぎず、自国の権利を主張する場に過ぎないのに、これを世界平和を推進するために必要不可欠の組織だと誤解して、率先して莫大な分担金を支払い、「枢軸国」のくせに「連合国」の常任理事国の地位を得ようと、物欲しげな顔をしている日本の姿は、政治禁と言いながら、政治そのものである国連に、大規模な代表団を派遣している国際ロータリーと共に、いささか滑稽な感すらしますが、皆さまいかがお考えでしょうか。

2006年7月20日